

第6次竹原市総合計画後期基本計画審議会【第1回】

開催日時 令和5年4月18日（火）10:30~12:00

開催場所 庁舎3階第1・2会議室

出席者 審議会委員13名（欠席者2名〔九十九委員〕）、総務企画部長、企画政策課長、事務局

（事務局）

皆様、本日は大変お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。この審議会につきましては、原則公開とさせていただくとともに、議事録を皆様のご確認後、市のホームページにて公開させていただきますのでご了承ください。それでは定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第1回竹原市総合計画審議会を開催いたします。わたくしは事務局の竹原市企画政策課の川本でございます。どうぞよろしく願いいたします。会長へ議事進行をゆだねるまでわたくしが進行を務めさせていただきます。

まず、配布資料の確認をさせていただきます。会議の次第、委員名簿、配席図、資料1、資料2、策定スケジュール等をお伝えさせていただいております別紙1、資料3、参考資料、現行の竹原市総合計画の概要版となりますが、資料の不足はございませんでしょうか。では、お手元に配布しております次第に沿って議事を進めます。はじめに、市長からご挨拶申し上げます。

（市長）

皆さんおはようございます。本日は、ご多用の中こうしてお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。開会にあたりご挨拶を申し上げます。まず、皆様方には、本市の市政へのご支援・ご協力を賜っておりますことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。また、この度は竹原市の総合計画審議会の委員をお願いをさせていただきましたが、皆様ご多用の中でもお引き受けをいただき、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

今年、総合計画策定から5年目を迎えております。前期基本計画の5年間で終了する年に、後期基本計画の策定にあたり、これからの取組について様々な視点から皆様方のご意見を伺いたく、この度この会議を組織させていただきました。案内のとおり、わたくしが就任をした年に策定作業を開始いたしました。翌年度から総合計画がスタートしたわけでございます。「元気と笑顔が織り成す暮らし誇らし、竹原市。」という将来都市像の目標達成に向け、前期基本計画は4年経過いたしました。様々な取組を前に進めるべく取り組んでいるところでございます。

一方で、全国的には地方都市の人口減少が進んでおります。そうした中、皆様ご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻など、様々な周辺環境の変化があり、社会情勢が非常に混んとする中での行政運営を強いられているところで

ございます。コロナは来月フェイズが変わります。そうしたことから、コロナ前、ウィズコロナを経て、アフターコロナに向けて、世の中が加速していくものと認識しております。

この度の総合計画後期基本計画につきましては、国がデジタル化（DX）の推進を大きく掲げておりまして、そうした要素を加える中で後期基本計画を策定していくという大前提があるわけでございます。皆様方には、そうした竹原市の目指すべき方向の中で、現時点でどのようなものが竹原市に必要かということをおぼろげに申し上げていただきまして、この会が有意義なものになりますよう、ぜひご支援ご協力をお願いしたいと存じます。年間、何回もお声がけをし、ご案内をしてこの会議を進めていくわけでございますが、公私ともご多忙の中、大変恐縮ではございますが、ぜひより良い元気な竹原市の将来に向けて皆様方のご支援ご協力をぜひお願い申し上げます。簡単ではございますが、審議会の開催にあたってのお願い、また、今後のご支援ご協力のお願いとさせていただきたいと思っております。どうぞ今後ともよろしくお祈り申し上げます。ありがとうございます。

（事務局）

ありがとうございます。それでは次第3の委員紹介に移ります。委員の皆様を50音順にご紹介させていただきます。広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授 伊藤敏安様、県立忠海高等学校 校長 沖本裕之様、三井金属鉱業株式会社 竹原製錬所労働組合 執行委員長 越智康弘様、県立竹原高等学校 校長 梶白博志様、竹原商工会議所女性部 会長 北丸令子様、フリーアナウンサー 橘高貴恵様、広島西条公共職業安定所竹原出張所 出張所長 楠戸雅浩様、竹原商工会議所 副会頭 小坂政彦様、竹原市農業委員会 会長 祐本征武様、竹原市女性連絡協議会 会長 竹下純子様、株式会社広島銀行 支店長 蓮池茂雄様、竹原市自治会連合会 会長 山村道信様でございます。なお本日は、竹原市子ども・子育て会議 委員 大武佳菜子様、竹原市校長会 会長 九十九邦守様が欠席となっております。

続きまして、次第4の会長選任に移らせていただきます。竹原市総合計画策定条例第3条第4項の規定によりまして、会長選任につきましては委員の皆さんから互選することとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

（委員）

第6次竹原市総合計画の基本構想及び後期基本計画の策定について、経験が豊富な広島修道大学の伊藤先生にお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

（事務局）

楠戸委員からご意見がありましたが、皆さんいかがでしょうか。異議がないようですので、伊藤先生に会長をお願いしたいと思います。伊藤先生から一言、ご挨拶をお願いいたします。

(会長)

伊藤でございます。高い席から失礼いたします。先ほど市長からお話がありましたように、5年前に10年計画ができて、前半の5カ年計画、そして今から後半の5カ年基本計画ができます。ただし、5年前に作ろうとしたときに、不幸なことに災害が起きました。基本計画というものは得てして総花的になりがちなのですが、当面の災害からの復旧復興という大きな目的がありましたので、それに取り組んできたという点では評価すべきことだと思います。残りの5年間は、いよいよ「笑顔と元気」という10カ年の総合計画の理念を具現化していく重要な計画になると思いますので、それぞれの立場からいろいろなご意見をお伺いしながら仕上げていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

伊藤会長、ありがとうございました。市長は公務につき、これにて退席をさせていただきます。

(市長)

では皆さんどうぞよろしくお願いいたします。失礼いたします。

(事務局)

それではここからの議事進行は伊藤会長へお願いいたします。

(会長)

お手元の次第をご覧ください。議題1、第6次竹原市総合計画後期基本計画の策定についてということで、まずは事務局から資料のご説明をお願いいたします。

(事務局)

では、本日の議題となっている資料について事務局から説明をさせていただきます。私は竹原市企画政策課の大川と申します。よろしくお願いいたします。お手元にある資料1をご覧ください。「第6次竹原市総合計画後期基本計画の策定について」ということでご説明してまいります。

まずは策定の趣旨につきましてお話させていただきます。こちらについては、「市政運営の指針となる「第6次竹原市総合計画」の前期基本計画が令和5年度に最終年次を迎えることから、現計画の取組に対する検証や社会・経済情勢等の変化を踏まえた各種基礎調査等を行ったうえで、後期基本計画を策定するというものであります。

続いて2番の次期計画の策定概要についてであります。計画の内容につきましては、現計画の取組や社会・経済情勢等の変化を踏まえ、基本構想で示した将来像を計画的に推進する

ための後期5年間の具体的な事業計画を体系的に示し、かつ、地方創生に関する施策を位置づけ、次期総合戦略及び人口ビジョンとしての機能を果たすものとするものであります。この計画期間は、令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間として策定してまいります。

続いて、計画策定にあたっては、資料の中段にあります(3)実施内容に記載しておりますように、「ア 各種基礎調査の実施及び分析」では、現計画の取組に基づき、本市の現状・課題を整理するとともに基礎的データを収集するための各種調査を行い、本市を取り巻く社会経済状況等について分析するというものであります。そして、「イ 各種指標の設定」につきましては、次期計画に定める各種施策等の進捗管理をPDCAサイクルに基づき実施するため、各種施策の進捗状況の把握に適した指標及びその計測方法等における重要業績評価指標(KPI)を設定するものであります。

続いて、「ウ アンケート調査及びパブリックコメント等の実施」につきましては、市民の多様な意見等を聞くため、市民満足度調査及びパブリックコメント等を実施し、その内容について分析・課題整理等を行うものであります。このうち市民満足度調査につきましては、すでに実施しておりますので、その状況は、この後に資料3で概要についてご説明させていただきます。

最後に、「エ 竹原市総合計画策定に係る審議会・策定委員会の開催」につきましては、次期計画の策定に関して必要な事項の調査及び審議を行うため、竹原市総合計画審議会及び策定委員会を開催するものであります。このうち竹原市総合計画審議会につきましては、竹原市総合計画策定条例第3条により、竹原市総合計画の策定に関して、必要な事項の調査及び審査を行うために設置するとあり、まさに本日の会議がこの審議会の第1回目になるものであります。また、策定委員会は、竹原市役所内部の部課長で構成する組織になり、それぞれが担当する施策において調査研究して次期計画の策定作業を行うものであります。最後の3策定スケジュールにつきましては、資料2の説明をした後にお話をさせていただきます。以上が資料1となります。

続きまして、資料2をご覧ください。ここでは、「竹原市総合計画と竹原市まち・ひと・しごと創成総合戦略の一体化について」お話しさせていただきます。まず、「1 現状」についてです。こちらは、国が、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の一極集中を是正することなどを目的として、平成29年にまち・ひと・しごと創生法を制定しております。これに基づいて、市町村にはまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を努力義務として作るよう、当該法律に規定されております。これを受けまして、全国の各地方自治体におきましても多くの自治体が人口減少対策に取り組んでいるところなのですが、この取組をしていくにあたり、先ほどお話しした総合戦略を策定することによって、国から交付金や補助金などの支援を受けることができるという点で、本市では令和2年3月に計画期間を令和2年度から令和6年度までの5か年とする「第2期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しまして、今現在各種施策に取り組ん

でいるところであります。

次に「2 課題」についてですが、こちらは別紙1下段の「(2)総合計画後期基本計画及び第3期竹原市総合戦略の計画期間」を見ながら聞いていただけたらと思います。「第2期竹原市総合戦略」と「第6次竹原市総合計画前期基本計画」の計画期間は、いずれも5か年となっております。しかしながら、その始まりが1年間ずれているというのが、この表で示しているものであります。ちなみに表でいうと、上が総合計画で平成31年(令和元年)から前期基本計画が右側にのびて、令和5年末までになっております。その下の総合戦略をみると、令和2年から第2期総合戦略という矢印が右側にのびて令和6年度末までということで、ここで1年間のずれが出ております。このことによってどうしても、最後の1年間が施策を推進する場合に、計画の位置づけが変更になった場合に実効性の確保が課題になってくると考えております。また、竹原市総合戦略と総合計画は内容が類似している個所もあり、計画策定や効果検証作業などで作業が重複することにもなってまいります。

このことから、資料2の第6次竹原市総合計画後期基本計画と第3期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間を揃え、一体化することで、それぞれの整合性を図ることができ、計画の策定や進行管理に係る作業の重複を解消できると考えております。

このことを踏まえ、第2期竹原市総合戦略の計画期間を1年間短縮し、第3期竹原市総合戦略と第6次竹原市総合計画後期基本計画の開始時期を合わせるというものであります。

策定スケジュールにつきましては、別紙1の上段にありますスケジュールが、総合計画と総合戦略のスケジュールになってまいります。計画は令和5年3月から始まり令和6年3月まで、それぞれアンケート調査から始まりまして、基礎調査分析、素案の作成、パブリックコメントの実施、計画書の印刷などを含め、こういったスケジュールで進めていきたいと思っております。この中で皆様に委員としてご協力をお願いしております審議会の開催につきましては、本日の第1回目をはじめ、6月、8月、9月、11月、1月の計6回を予定しております。皆様におかれましては大変お忙しいことと存じますが、何卒ご協力のほどよろしく申し上げます。以上で資料1・2の説明を終わります。

(会長)

ありがとうございます。総合計画基本計画の趣旨説明に併せて、まち・ひと・しごとに係る地方創生に関する、総合戦略との関連性についてのご紹介でした。少し、総合戦略が入ってくるとややこしいのですけれども、今の説明につきまして何か質問等はございますか。

(質疑なし)

よろしいでしょうか。それでは、趣旨をご理解いただいたということで、最後に時間がありましたら、全体を通して質問等をお受けしたいと思います。

それでは議題2です。第6次竹原市総合計画後期基本計画策定に向けたアンケート調査について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料3「第6次竹原市総合計画後期基本計画策定に向けたアンケート調査の結果概要」、参考資料(平成29年に実施した前回調査の結果概要)を並べて見ていただくと少しわかりやすいと思います。よろしくお願いいたします。

それではまず、1ページ目の「1 調査概要」についてです。「(1) 調査の目的」につきましては、第6次竹原市総合計画後期基本計画を策定するにあたり、市民の思いを把握し計画策定の基礎資料とするためであります。調査項目につきましては、前回実施した平成29年時と比較できるようにするため、ほぼ同様の項目としており、調査方法は、無記名のアンケート調査方式としました。

「(2) 調査の対象」につきましては、竹原市に住民登録をしていただいている方の中から、18歳以上の竹原市民2,500人を無作為抽出により選定しました。

「(3) 調査期間」ですが、令和5年1月5日から令和5年1月31日の27日間とし、なるべく多くの意見を反映したかったことから、提出期限を令和5年2月15日としてアンケート回答を受付しました。その結果として、「(4) アンケートの回収状況」につきましては、回収した数は、818件(有効回収数811件)で、回収率は32.72%となりました。参考までに、前回に実施した平成29年は、ほぼ同様の条件で実施をしておりますが、この時の回収率は30.61%でありましたので、今回は2.11ポイント上回ったという結果になっております。また、今回は資料として記載できておりませんが、回答していただいた方の性別につきましては、男性42.8%、女性55.6%で、合わせて98.4%となっております。その他として、回答しない1.0%、無回答0.4%、その他0.1%となっております。前回調査では、男性39.6%、女性59.5%で、合わせて99.1%でありましたので、回答率としては、男性が3.2ポイント増、女性が3.9ポイント減となっております。

続いて、「2 結果概要」についてです。資料1ページの下にある「図1 竹原市での暮らしの評価」をご覧ください。「住みやすさについて」の評価では、「まあまあ住みやすい」が62.8%で最も多く、「とても住みやすい」の11.9%と合わせた74.7%の人が「住みやすい」と評価していただいております。これにつきましては、前回調査では、「まあまあ住みやすい」59.7%、「とても住みやすい」14.0%で、合わせて73.7%の人が「住みやすい」との評価でありましたので、前回比較では、1.0ポイント上回ったということになっております。

愛着度の評価につきましては、「ある程度感じている」が61.5%と最も多く、「強く感じている」の17.8%と合わせた79.3%の人が「愛着を感じる」と評価していただいております。この項目の前回調査では、「ある程度感じている」が57.7%、「強く感じている」が16.5%で、合わせて74.2%でありましたので、前回との比較では、5.1ポイント上回ったという結果になっております。

続いて2ページをお開きください。「(2) 竹原市の強み(良いところ)」についてのアンケートでございます。「図2 竹原市の強み」をご覧ください。この項目につきましては、

「温暖で過ごしやすい気候」が76.8%、「瀬戸内海や山、川などの豊かな自然」が69.1%で、他の項目より随分高いポイントとなっております。次いで、「牛肉、タケノコ、ぶどう、じゃがいもなどのおいしい食べ物や地酒」が44.6%、「歴史的な町並みや大久野島などの観光資源」が43.4%、「おいしい水を安定して供給できる豊かな水資源」が42.8%で、この3つは40%を超えています。この項目の前回調査では、今回と同様に「温暖で過ごしやすい気候」が78.4%、「瀬戸内海や山、川などの豊かな自然」が69.2%で、やはり他の項目より高いポイントとなっております。その他の項目につきましても若干の前後、増減があるもののほぼ同様の結果となっております。

続いて、2ページ目の下段は「図3 他地域から移り住む人にとって、竹原市は魅力があるか」についての結果です。この項目につきましては、「ある程度思う」が39.1%、「あまり思わない」が35.4%となっており、この2つが評価の大半を占めています。この項目の前回調査では、「ある程度思う」が、35.1%で、「あまり思わない」が、41.8%であり、今回と同様にこの2択が評価の大半を占めております。

続いて3ページをご覧ください。「(4) 竹原市の魅力とその魅力を将来に引き継ぐために必要な取組」についてです。この項目は、先ほどの2ページにありました各評価のうち「強く思う」と「ある程度思う」と回答した人に、竹原市の魅力とその魅力を引き継ぐために必要な取組はどのようなものかを自由記入で回答いただいた中から、その内容を単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や相関関係、傾向などを解析したものを3ページの中段以降にあります「図4」に示したものであります。こちらを見てみると、キーワードはたくさんありますが、中でも「人」「自然」「気候」「温暖」といったキーワードについては、前回と同様に少し大きめの円になっており、こういった言葉の出現率が高くなっているということが読み取れる図となっております。

続きまして4ページをお開きください。こちらでは「(5) 移住経験のある人が竹原市に住む際に重視したこと」について聞いております。「図5 移住経験のある人が竹原市に住む際に重視したこと」をご覧ください。この項目につきましては、「親や子ども、親戚が近くにいる」が30.7%で最も多く、次いで「豊かな自然に恵まれている」が18.7%となっています。この項目の前回調査では、「親や子ども、親戚が近くにいる」が、30.6%で、「豊かな自然に恵まれている」が、17.7%であり、今回とほぼ同様の傾向にあることがみてとれます。

次に4ページの下段にあります「(6) 今後の移住意向」の「図6」をご覧ください。今後も竹原市に住み続けたいかについては、「住みたい」と「住み続けたい」を合わせて66.5%となり過半数を超えております。前回の調査でも「住みたい」と「住み続けたい」を合わせて66.5%となっておりますので、こちらも同様の傾向となっております。

続いて5ページをご覧ください。「(7) “魅力あるまち”となるために必要なこと」についての項目です。「図7」をご覧ください。市外に住んでいる人が竹原市に住みたいと思えるような“魅力のあるまち”となるために必要なことについて、「企業誘致や商工業の振興により、いろいろな仕事に就くことができるまち」が61.0%と最も多くなっております。次い

で、「地域への医療提供や健康づくりへの取組により、だれもがいつまでも健康に暮らせるまち」が34.4%、「地域みんなで子育てを応援する、子どもたちの元気な声が響きわたるまち」が32.9%となっています。前回調査におきましても「企業誘致や商工業の振興により、いろいろな仕事に就くことができるまち」が最も多くなっており、次いで先ほど言った項目が同じ順番ということで、同様の流れになっております。

続いて6ページをお開きください。「(8) 竹原市で取り組んでいる分野別の満足度・重要度」について皆様に回答いただいております。竹原市が目指す将来像や目標像に向け取り組んでいる各基本施策の重要度と満足度について回答結果を得点化し、横軸を満足度、縦軸を重要度として、満足度と重要度を相関図にしたものが、「図8 満足度・重要度の相関図」であります。表の見方としては、左上の「A」領域は【重点化・見直し領域】、右上の「B」領域は【現状維持領域】、右下の「C」領域は【現状維持・見直し領域】、左下の「D」領域は【改善・見直し領域】となっています。各分野の領域の位置づけの一覧につきましては、7ページの「表1」で、もう少し大きい文字でご確認いただけます。

次に8ページをお開きください。「(9) 概ね5年前との比較」についてでございます。8ページから9ページにかけて記載している「図9」をご覧ください。ここでは、先ほどの6ページから7ページでも用いた34分野につきまして、概ね5年前との比較で、良くなったか、悪くなったかを評価していただいたものであります。表の見方は、表の左側のマスが「良くなった」のポイント数を示しており、そこから右側にいくにつれて、「やや良くなった」「変わらない」「やや悪くなった」「悪くなった」「無回答」の順番にポイント数を記載しております。白黒の印刷のため分かりにくいところがあることにつきましてはご容赦ください。この「図9」の中で、「良くなった」と「やや良くなった」の合計で最も高いポイント数となったのは、9ページ中段の「27 ごみの減量化や3Rの推進等により、環境にやさしい清潔で快適なまちをつくっている」の項目で、42.0%と最も高くなっております。一方で、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計で最も高いポイント数となったのは、8ページ下段の「14 創業が起こり、事業者が育ち、商工業が発展し、賑わいのあるまちになっている」の項目で、28.0%となっており、次いで、8ページ中段より少し下の「8 市民の結婚・妊娠・出産の希望をかなえるための支援体制が整っている」が26.5%、「7 持続可能な公共交通体系が構築されている」が25.3%となっています。前回の調査では、若干表現が異なる項目がありますが、類似した項目のうち、「良くなった」と「やや良くなった」の合計で最も高いポイント数となっていたのは、今回の項目でいいますと8ページ中段の「歴史と文化財が保存・継承され、地域の活性化に活かされている」で47.4%です。逆に「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計で最も高いポイント数となっていたのは、前回の項目名でいいますと「子育て環境の充実」で39.8%となっていました。

資料3の概要につきましては、以上のとおりになります。今後はアンケート調査の結果報告書にまとめますが、前回は約90ページにわたりました。こちらをとりまとめて、総合計画後期基本計画や総合戦略へどのように反映できるか関係者と協議を進め、審議会委員の

皆様にもご相談しながら進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしく
願います。以上で説明を終わります。

(会長)

ありがとうございます。今後、後期基本計画を作っていく中で、こういった現状把握は一番基本になる作業です。その方法として大きく二つあります。一つ目は統計的なデータから、変化の方向や他の都市との比較といった分析をすることです。そしてもう一つ重要なのがこの市民アンケートです。今回は18歳以上ということで、高校生は一部該当されていると思いますので、教育関係者、特に産業関係については厳しい意見がありますので、それぞれの立場から気が付かれたことや、基本計画策定に向けたご意見等をいただければと思います。

(委員)

5ページの「魅力あるまち」となるために必要なこと」ということで、「企業誘致や商業の振興により、いろいろな仕事に就くことができるまち」が61%となっていますが、現在竹原工業・流通団地は全て埋まっている状況なのかを教えていただきたいです。埋まっているのであれば、新たな企業誘致をしようがないという問題があるかと思います。

(事務局)

竹原工業団地の件につきましては、現在9区画中8区画が埋まっており、既に操業されている状況です。残りの1区画につきましては、引き合いがありまして、広島県を含めて関係機関と様々なやり取りをしていると聞いております。先ほどの総合支援等につきましては、産業振興課で施策の改定を図っており、事業者に対する支援策を拡充したところですが、具体的なことについては、この会の後に資料をお示しできればと思いますので、よろしく願いいたします。

(委員)

ありがとうございます。これから行っていく計画においてもやはり、新たな工業・流通団地を増やすということは期間と費用がかかってきます。商工会議所の方でも会員さんが昨年度、工場を新設したいということで、1,000坪の土地を探しておられたのですが、先ほどのお話にもございましたように工業・流通団地はいっぱいというところもありました。そういった部分では、市役所で把握されている土地や、企業がお持ちである遊休地について情報収集をしながら、新たに企業に貸すなどしていただければいいかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。雇用の安定確保というのは基本の一丁目一番地でしょうから、大

きな企業に来ていただくことはさることながら、小さな企業一つずつにがんばっていただき、雇用を少しずつでも確保していただくような仕組みができていければと思います。他にどなたかご意見・ご質問はございますか。

(委員)

基本的なことをお聞きしたいのですが、こういったアンケートで回収率が 30%台というのは普通に考えるとものすごく低い気がするのですが、このようなアンケートの回収率は大体これくらいである程度納得できるものなのでしょうか。

(事務局)

アンケートの回収率が 30%台というのが満足できるのかどうかという問いにつきまして、決して満足できるものではないということになるかと思います。我々の方もなるべく回答率を上げるために、記述形式の設問を少なくして、選択方式の設問を増やすなどしておりますが、結果としてこのような結果になったというものであります。ただし、前回の回収率を見ていただくとわかるように、どうしても皆さんお忙しい中で無作為で抽出して送っておりますので、少しポイントが上がったという点については、率でいえば、興味関心を持つ方が増えたというふうに理解しております。少数の意見でも、いかに反映させるかということが大事だと思っておりますので、その点を注視しながら進めていきたいと思っております。

(会長)

回収率はなかなか難しい問題でして、3人に1人というのは、中規模クラスの都市でいえばがんばったなと言えます。これがもっと大きな都市になると 10~20%台ということもあります。最近、国勢調査ですら、回答いただくことが難しくなっておりますので、いろいろな工夫をして今後とも厳しい中で実施していかざるを得ないかなという気はいたします。他にどなたかご意見・ご質問はございますか。

(委員)

アンケートのことで加えて質問いたします。前回は 3,000 人で今回は 2,500 人と対象者の減少があることについてです。また、前回は若い人の回収率が示されていますが、今回も引き続きやられていたのか、若い方の回収率はどうだったのか、基本的な情報として教えていただければと思います。

(事務局)

アンケートの人数につきましては、対象者の数に変化があったというのが大きいところであります。今回の調査は、令和 5 年 1 月 5 日から始めておりますが、令和 5 年 1 月 1 日現在の竹原市の住民登録人口は 23,584 人、うち男性 11,257 人、女性 12,327 人となっております。

ります。これに比較して前回は、平成 29 年 12 月 15 日から始めておりますが、平成 29 年 12 月 1 日現在の住民登録人口は 26,314 人で、うち男性 12,553 人、女性 13,761 人でした。残念ではあるのですが、人口が減っているということで、対象者数もそれに合わせて減少したということになります。回答された年齢別の構成なのですが、こちらは今後分析の中で、次の審議会で議題になると思いますので、それまでに整理をさせていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(会長)

他にどなたかご質問はありますか。

(委員)

3分の1の回答率というのはそこそこだと思います。大体、3分の1は賛成、3分の1は反対、3分の1はどちらでもいいという原則があると思います。先ほども言われましたように、東京などへいくほど減少していくのが現状じゃないかと思います。ただ、そうした中で、その3分の1の回答の中で、住みやすさや愛着度を感じるという回答がある程度のウエイトを占めていると言われるのですが、こういったことは3分の1の中のそれであって、大きな母集団におけるパーセンテージではないというふうに考えたときに、そういった大きな母集団でみる必要があるのではないかと思います。というのは、3分の2の方は逆にいうと、反対に回っているんです。要するに、あまり意味がない、反対だというふうに捉えた方が。ただ、そうした中で、ここで現在回収していただいた、要するにまじめな人が73%だけでも、全体の母数だったらどうなるのかという時に、過半数をわっているという危機感を持つ必要があると思います。

注視していかなければいけないのが、前回と今回のアンケートの回答内容で、落ち込んでいるところに関しては、誰しもが思っていることだと思います。例えば、「移住経験のある人が竹原市に住む際に重視したこと」において、「買い物が便利である」や「暮らしていくのに安全・安心である」が下がっています。「魅力あるまち」となるために必要なこと」でいえば、医療体制が下がっています。そういった下がっているところに今後目を向けていく必要があると思います。

あくまでも3分の1の回答例だけれども、それは何を意味するか。母集団に対して3分の1はこう考えているが、全体像から見たらどういうふうな考えがあるかということも踏まえてみる必要があると思います。

(会長)

少し注釈が要ると思うのですが、確かに3分の1、カーブの秋山の打率と比べても随分低いのですけれども、これはポジティブな人も回答しているし、中にはネガティブな人も回答しています。実際には26,000人、18歳以上の有権者全員の回答があれば望ましいのです

が、費用的にも期間的にもまず無理です。ですから、こういった形で2,500人を言わばくじ引きで選んできて、その中の回答者を集計しています。3分の1なのですが、その中には、ポジティブな人もいればネガティブな人もいるということで、いわばですね、26,000人の雛型が今回の調査結果で現れている。もし同じようなサンプリング調査で1カ月後にやれば少しデータが違はずなんです。けれども、その1カ月後の調査もやはり3分の1くらいの回答率であって、ポジティブな人、ネガティブな人それぞれ回答していると思います。その違いは実は、統計的な検定ということで、厳密にやればどこがどの程度違うか、本当に差があるのかどうかを検証しなければいけないのですが、おそらく変わらないです。ですので、今回の調査は、26,000人の雛型といいながら、厳密に言えば多少のこぼこはありますが、統計的には95%くらいの確率で、それほど違和感無く市民の意識を反映していると考えてもいいかと思います。

むしろ、今おっしゃられたように、5年前との変化が重要だと思います。おおまかには、先ほど事務局からのご紹介のように大きな変化はないです。これはいい事でもあれば、悪い事でもあります。ですので、ポジティブな意見は上に伸ばさなければいけないですし、先ほどのようにネガティブな問題があれば、それを改善すべく取り組まなければいけないだろうと思います。そういった中で、十年一日、五年一日とは申しませんが、おおまかには5年前と変わっていないので、それほど危機意識というか、先ほどのようにいいところは伸ばそう、問題があればより取り組んでいこうということでもいいかと思います。

一つ、明らかに統計的に意味があり、おもしろいと思ったのが、2ページ目です。他地域から見て魅力があるかどうかということで、「強く思う」「ある程度そう思う」の合計が42%です。前は同じ質問で37%でしたので、大きく伸びています。一方、思わないという回答が、今回は合計42%、前は49%とほぼ半分ありましたので、思わないという回答が随分減っています。これはおそらく、2つの要因があります。1つは対外的に、コロナ問題等はありませんでしたが、地方志向が高まっているというトレンドがあると思います。これも程度の問題で、大きな流れではなく小さな流れでも地方志向が強くなってきている。それからもう1つ、これは内部的な問題で、この5年間の地道な取組が何らかの形で効果を発揮しているのだと思います。竹原のイメージ戦略も重要だと思います。そういう意味で、こういったポジティブな面はぜひ今後とも後期計画の中で活かしていければと思います。

分析の例ですが、こういった形で細かくみていけばおそらく面白い特徴があると思います。同じように、8～9ページ、5年前との比較で、「良くなった」「やや良くなった」のプラス回答を合計してみる。逆に「悪くなった」「やや悪くなった」を合計してみる。これが重要なんです。ただ、これだと通してみるのなかなか難しいので、こういった集計でよくやるのは、良いという回答の合計から良くない、悪くなったという回答の合計を引いてその差をみます。どちらともいえないは除きます。要はプラス回答からマイナス回答を引いて、相対的な評価の度合いを比較すると、どの項目がトップかというのがより鮮明になります。こういった分析も今後していただけたらと思いました。他にどなたかご意見・ご質問はあり

ますか。

(委員)

アンケートそのものということではないのですが、竹原市は観光的なことという全国にも注目されたことが何度かあります。当然、自然もありますし、そういった面では暮らしやすいと思います。ただ、先ほどから言われていますように、企業の誘致や病院、学校、商業施設をセットで考えていかないと、どこかが欠けてしまうとまちづくりとしては非常に弱いと思います。学校関係者の立場から言わせていただくと、高等学校は市内に2校ありますが、以前から、人数が少なくなったのでどちらかにした方がいいのではないかという話も水面下では出ていると伺っております。ですが、県内で高等学校が無くなったまちは全部すたれていっています。そういったところを踏まえていただいて、どちらか一つにするという話ではなく、2校あるから機能しているという部分がありますので、そういったところを考えていってもらえればなと思っております。よろしく願いいたします。

(事務局)

今いろいろとご意見をいただいて、確かに学校のことも含め、観光面、自然環境面等、総合的なまちづくりということですが、総合計画の概要版がございましてご覧いただきたいと思っております。この総合計画は、当時の未来の想定に向けて、まちづくりの方向を明らかにする指針、最も上位の計画と位置づけられております。10年間のスパンの中で、現在前期の5年間で終了するにあたり、後期の5年間の策定ということで今回ご審議いただいているところでございます。この間、総合計画につきましても総合戦略につきましても、効果の検証会議におきまして先ほど先生が言われたように、県立学校の話も当然出まして、2校あるうちのどちらかにという話もございまして。県立高校ということで市がタッチできるものではございませんが、まちづくりをしていく中では学校というのは大変重要な位置にございますので、その点を踏まえ、あと数回の審議会の中におきましてもそういったお話がでるかと思っております。めざすまちの姿といたしまして、本市としても、委員の皆様から忌憚のないご意見を聞かせていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

(委員)

4ページの円グラフについての質問です。今年度は「市外に移り住む予定がある」とありますが、5年前は「市外に移り住みたい」と日本語が違いますが、住みたいと住む予定があるというのは大きく違ってくると思いますが、こちらは「住む予定がある」でよろしいのでしょうか。

(事務局)

なるべく比較をしやすいように、全て同じ項目でやりたかったのですが、やはり言葉の捉

え方で、最近「地方への移住」という言葉も出てきていますので、若干言葉のニュアンスを変えてこのような項目にしたというのが、質問の趣旨になっております。若干違うのですが、あくまでも、このたびで言えば、市外に移り住む予定があるという言葉の方で理解をしていただけたらと思います。

(委員)

もう1点、市民のほとんどの方は興味を持っていらっしゃると思いますが、承継の問題で、イズミが撤退して、竹原の中心地が駐車場を含め大きく空いております。市の方が発信すべきことではないかなとも思いますし、水面下では進んでいることもあるのではないかなと思います。できるだけ早く、市民の不安を除くように、何か発信できることがあれば。もちろん、市庁舎も移転すると、ここも含めて大きな空間になってしまいますので、もし何か構想があれば、市民の方に出来るだけ早めに発信していただけたら嬉しいなと思います。

(事務局)

市内中心部のお話でございまして、ご承知のように昨年11月にイズミさんが撤退され、空洞化しております。所有者が民間の方ということで土地と建物は市のものではございませんが、そうは申しまして隣接しているということと、市の庁舎も、お話にございましたように、令和6年度内には竹原合同ビルに移転する予定といたしております。そうなりますと、ここも当然建物が空きますので、解体も含めましての構想ということと、今考えておりますのが、今年度の予算で跡地も含めまして、活用について検討するということとしております。その中には、現在フジにある図書館の仮の移転も含まれています。竹原市民館も老朽化しておりますので、こちらの庁舎が移転した後は、図書館や市民ホール機能を含めた新しい複合施設をということで考えております。なかなか一足飛びにすぐできませんし、解体につきましても当然お金がかかることとございまして。隣接する土地も含め総合的に考えるということで、ビジョン的なものを策定というのが今年度になろうかと思っております。そういった面も含めまして、市民の方へ情報発信は大変重要でございまして、議会も含め市民の皆様へ情報提供を行いたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(会長)

今の2つ目について、まちづくりそのものの重点課題等は後期の基本計画のどこかに位置づけられるのだらうと思います。

1つ目の4ページですが、大きく「住みたい」「住みたくない」で分ければ、前回の結果と、おそらく統計的な意味は変わりません。いいことか悪いことかはわかりませんが、変化なしと考えていただいてもいいかと思っております。

(委員)

いろいろな結果を円グラフ、棒グラフにさせていただいて非常にわかりやすいのですが、3ページの丸の図について、私はこれを見ても、どう捉えていいのかよくわかりません。これはどのようにみたらよろしいでしょうか。

(事務局)

先ほどお話をさせていただいたように、この前の設問で、「魅力あるまちだと思う」「ある程度思う」と回答していただいた方に、どこがそう思うのか記述をしていただきました。アンケートは大体、選択方式が多いのですが、具体的に何がそう思わせるのかを聞いた中から、キーワードとして出た言葉を体系的にとりまとめたものです。ここからヒントとして、どこに施策を抽出したらよいのかといったものを視覚的に見るものというふうに捉えてもらえればと思います。この表の丸の位置が右にあるか左にあるかということは重要ではなく、キーワードとしてこういうものが出ているという意味でみていただけたらと思います。

(会長)

よく選挙前などに、党首の演説のキーワード分析のようなものが市によっては出てきます。ここで言えば、丸の大きさが頻度、出てきた各言葉の数が丸の大きさ、位置関係は、相互の結びつきと考えるだけでいいと思います。例えば、岸田さんの場合は、「防衛」「子ども問題」というキーワードがおそらく真ん中に入ってきて、その周辺に「少子化対策」というような関連ワードが小さい丸で並ぶと思います。今のご説明のように、アンケートの自由回答をキーワードの回数、頻度と相互の関係を整理しましたということで、統計でいえば、記述的な統計でこんなもんかという解釈にするしかないだろうと思います。

(委員)

例えば、右側にある「人」「若い」「働く」「場所」というのがつながっているのは、若い人が働く場所、そういう感じかなと、それぞれの塊は何となくわかるのですが、この図は意味があるのかなというのが気になってしまいます。いろいろなキーワードを書き連ねたほうがわかりやすいかなと思います。これを一般市民の人に出すわけではないかもしれませんが。

(会長)

おっしゃるとおりで、キーワードを整理したという段階です。前回はそうなのですが、円のグループを見るとおおまかに、「ひと」「まち」「しごと」にグルーピングできると思います。そういう意味では、今はもう内閣が2代3代と代わりあまり重点ではないですが、地方創生でとりあげた「ひと・まち・しごと」というのは、地方の市町村にとってみるとやはり大きなキーとなる分類と考えてもいいと思います。

(委員)

わたしも縁あって、いろいろこういった問題を以前からみさせていただいていた。要は、減少する人口にどう歯止めをかけるかということに尽きるんじゃないかと思います。人口がないと一般商業も成り立たず、結局は大きな店舗が撤退する。逆にできる場合もあるけれども、できたら今度は小さな店舗が沈んでいく。根本的には、人口が減っているということにあるのではないかということです。それが故に、竹原市の工業団地等の誘致が始まって、ほぼ埋まりつつある。

それと必要なのは、先ほど学校という言葉が出ましたけれども、一番はやい方法だと思います。これだけの土地と住みやすさ、利便性があるかどうかはまた別として、環境は整っているので、私学の誘致も可能だと思います。学生さんが来れば、必然的に人口も増えるわけです。滞留人口かもしれません。観光もそうです。観光も滞留人口による増加なんですね。要は、そういった学校が誘致されれば、固定化した人口が増えます。

東広島をみていただくとわかると思いますが、広島大学が東広島に来たことでまちが大きく様変わりしました。その中で、いろいろな企業がそれぞれの利点を出しています。これはひとつの物語だだと思います。竹原もそうした環境があるので、企業誘致や学校誘致、学校のクラブ誘致などどんな形でもいいので、学生が集まるような施設を今後ビジョンとして考えていく必要があると思います。ないものねだりかもしれませんが、どこかでそういった指針を出すことも必要だと思います。

(会長)

ありがとうございます。具体的な事業提案をいただきました。他にどなたかありますか。

(委員)

先週の中国新聞に、竹原市内に出店される企業がいらっしゃれば助成金を出されるというような記事がありました。こちらについて、非常に良い施策だと思ったのですが、反響があったのかということと、どのくらいを見込まれて、どのくらいの予算を付けていらっしゃるのかを質問いたします。

(事務局)

先ほど小坂委員からも質問があったときにお答えしたのですが、こちらの方につきましては従来あった施策を拡充したということでございます。こちらは大きいところは金額の部分だったように思います。今は手持ちの資料を持っていないので、個別具体的な説明ができませんのですが、後ほど併せて資料をご提供できたらと思いますので、よろしく願いいたします。

(会長)

具体的に引き合いがあるかどうかはいかがでしょうか。

(事務局)

新聞に出るからの引き合いがあるかどうかということは、私どもは聞いていないのですが、先ほどもありましたように、これまでも民間の遊休地も含めまして、広島県を通じて、あるいは市に直接、そういった引き合いは定期的にあると聞いています。この施策を拡充したことによって、そういった引き合いの中で合致するものがあれば、より効果的なのかなと思っております。

(会長)

他にどなたか、議題1と2を通じてありますでしょうか。

(委員)

「移住経験のある人が竹原市に住む際に重視したこと」のグラフを見ると、「その他」が13.7%とそこそこ多い数字になっています。先ほど言われましたように、やはり少数の意見というのは一番ポイントになってくるのではないかと思いますので、この13.7%の中にひょっとすると我々が見過ごしているところがあるかもしれません。その部分を把握していただき、今後活かしてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

(事務局)

確かに委員がおっしゃられるように、少数の意見も含め、その他の意見と併せて総合的に判断していかなければならないと思っております。今後審議を進めるにあたり、そういったものも踏まえて分析できたらと思っております。

(委員)

2ページ目の「他地域から移り住む人にとって、竹原市は魅力があるか」という設問と、1ページ目の「竹原市の暮らしやすさの評価」についてです。「暮らしやすさの評価」はポジティブな印象をうけるのですが、一方で「他地域の人から移り住むには魅力があるか」という設問に対するポジティブな意見に、違和感を覚えました。ここら辺をもう少しひも解いていくと何かヒントになるのではないかと思いますので、どのような印象をお持ちでしょうか。

また、いちばん最後の8～9ページの比較について質問です。前回のアンケートは10年前との比較なので遡るとさらに15年前くらいの印象から継続して見ていくようになるのですが、ご説明にあったとおり、以前は悪かった子育て環境の充実を図るための施策を竹原市さんが重点的に行ってこられたという印象を持っています。しかし今回のアンケート結果を見ると、「9 安心して楽しく子育てができる環境が整い、子供たちが健やかに成長している」は過半数が「変わらない」と回答しています。良くない状況が変わっていないという

結果はとても残念ですが、おそらく対象者をもっと具体的に絞り込むと、ポジティブな意見も聞けるのではないかと思います。せっかくやられた施策ですので、よりブラッシュアップできると結果も変わるのかなと思います。以上二点についてお伺いします。

(事務局)

まず、後者の子育てにつきましては、我々も長い期間をかけてかなり拡充してまいりました。この度も当初予算の方で、市長からも説明があったと思うのですが、入院・医療費等を18歳まで所得制限なしということで、さらに拡充しております。「竹原市はそういったところについて意外にがんばっている」というお褒めの言葉をいただくこともありますが、一方で「取り組んでいる施策をうまく発信できていない」というご意見もあります。ここが我々行政としても反省すべきところだと考えております。SNS やホームページなど、様々なメディアを通じてなるべく発信するようにはしていますが、改善が必要なところもあるかと思しますので、この点については反省も踏まえて見直しをしていくように気を付けてまいります。

また、1～2ページ目についてですが、例えば、「自分は竹原市に住んでいてある程度愛着があると感じているが、人に勧める場合はちょっと違う感覚になっている」という部分についての分析はまだそこまでできておりません。私見にはなりますが、自分から「竹原市はここが良い」となかなか言えないという方がおられるのではないかと一般的に言われているのをよく聞きます。我々もしっかりと、皆さんが良いところだと発信できるように、次期計画もしくは総合戦略を含め、施策に盛り込めればなというふうに思っております。以上です。

(委員)

私の印象では、自分自身が住むにはとても居心地が良いのですが、比較対象として住むまちには他にもあるので、人に勧めるとするならば、竹原市を一番にとは思わないというようなことがもしかしたらあるのかなと思います。そういうところをもう少しひも解くと、何かヒントが生まれるのではないかという印象を受けました。

また、ポジティブな考え方をすると、すごくダメだった子育ての印象を、「あまり変わらない」ではなく、「変化があったと」思ってもらうことは実はすごく簡単だと思います。少しの変化でも、すごく悪い部分は良く印象付けられると思いますので、その少しの変化を印象づける戦略といいますか、みんなの気持ちが「いいね」と変わるように発信することがポイントで、チャンスだなというふうに個人的には感じております。

(会長)

今のように、1～2ページ目のクロス分析をすることによって、今のように、ネガティブな回答の中からポジティブな意見がある人を引き上げるといった分析も可能だろうと思

ます。他に、議題1・2を通してぜひもう一度、後期基本計画策定に向けてこういった点を重視してほしいという意見等がございましたらお願いいたします。

(委員)

大型商業施設の閉鎖ということがありましたが、令和3年度と4年度の求人を比較すると、そんなに減っておりません。ほぼ一緒です。実は、去年6月頃から閉鎖が発表された時期は求人が少し下がったのですが、既存店の拡大や新たな商業施設ができたことで、その後戻ってきました。私自身は竹原の地力がまだ残っているというふうに感じております。他の地域では、そういう撤退に伴い明らかに衰退するということが起きていますが、この地域は基幹産業がしっかりしていますし、力が残っているということは、今が踏ん張りどころなのかなというふうに感じております。

それから、先ほど移住された方のお話がちらっとありましたが、たまたま7~8年前に西条に勤務しているときに、制度を使って広島から竹原に移住した子と知り合いました。私はフットサルをやっている、西条でフットサルを通じて知り合ったのですが、4年で地元の広島に帰りました。その時に聞いたのが、竹原では人間関係が作れなかったということでした。それは本人に原因があるのかもしれませんが、フットサルだけでなく、何らかの形で地域につながりを持っていたら竹原に残っていたのかなと思います。講座や相談所、ネウボラ、図書館といったきちんとした施設も必要なのですが、一方で、ゆるい形で集える場所も必要だと思います。例えば市の中心部の公園を少し改装していただいたり、こういった跡地にちょっと工夫していただいたりして、例えばバスケットやサッカー、あるいは三井さんのグラウンドをお借りしてソフトボールなど、クラブチームでなくてもあの辺に行ったらできるよねというような場所があるといいなと思います。スポーツに限らないのですが、そういった集まれるところがあると、自然と交流が生まれ、人間関係ができあがり、移住者も定着しやすくなるのではと感じております。きっちりしたものも当然いるのですが、ゆるやかな人の集まりということもぜひ考えていただくと嬉しいかなと思います。

(会長)

具体的な事業提案をいただきました。他にどなたかいらっしゃいますか。

では、今後のスケジュールにつきまして事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局)

次回の審議会の開催は6月を予定しております。アンケート調査の分析等、先ほどご意見いただいた部分に対しても何らかの回答ができればと思っております。会議日時等につきましては、今回と同様に事前調整を図らせていただきますのでその際はご協力のほどよろしくお願いいたします。本日は、活発な御議論と貴重な御意見をいただきありがとうございます。

(会長)

以上で、第1回会議を終了いたします。今日も皆様方の色んなご意見、ご要望等が今後活かされるように期待しております。それでは長時間にわたり、どうもありがとうございました。